

第2回学校建設準備委員会
概要報告

新たな学校は「施設一体型」に！

9月22日、町民センター第2会議室において、「第2回真鶴町学校建設準備委員会」が開かれました。冒頭の教育長からの挨拶では、町指導主事からのメッセージとして「ラグビーは身体の大きい、小さいに応じた様々なポジションが15存在し、どんなプレーヤーにも役割が与えられます。」と、学校建設準備委員会と同じ人数のラグビーにちなんだ話が紹介されました。協議では、長澤副委員長による一貫教育校についての情報提供のあと、「『学校教育あり方検討会』報告書」(令和4年7月)で示された提言に基づき、その可能性について具体的な検討を始めました。今回はその情報提供の内容と、協議で出された主な意見、決定事項について報告します。

9年間を見通して、地域で子どもを育てていく

長澤副委員長からの情報提供(これからの学校づくりの基本的な考え方)の主な内容は、次の通りです。

- *公共施設マネジメントとして、地域の側から子どもの育ちを支える環境・施設を整えていく必要があること。
- *従来の固定観念から脱却して、学校を新しい学びを創造する地域みんなの学校として捉えていくこと。
- *デジタル技術等を生かし、多様な学びを実現すること。
- *学校施設全体が学びや交流の場であると捉えること。
- * (例)
 - ・ロッカーを廊下に出し、教室全体を学びの環境として整える。
 - ・学級を超えた学びの場(オープンスペース)を設ける。
 - ・教科ごとに専用の教室を設ける。
 - ・成長を感じさせるため、9年間の行動様式を変化させる。
 - ・地域に開かれた学校として、図書館を学校の中心に置く。
 - ・先生のための広いスペースを設ける。
 - ・座ることができる場所を多くする。
 - ・特別支援級の教室を小中ごとに設ける。
 - ・特別教室を地域の人たちに開放し、主体的に管理できる体制にする。
 - ・明るくホッとできるトイレにする。



義務教育学校？それとも小中一貫型小中学校？

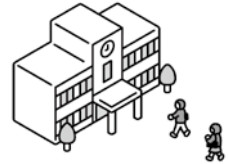
義務教育学校か、小中一貫型小中学校か。

配付された資料(二次元コードから参照)をもとに、委員の皆さんから建設的な意見をいただきました。決定は次回以降となりますが、主な意見は次の通りです。

- *義務教育学校は校長が1人で、一貫教育を推進する要になる。
- *非常時など9学年が同じ対応になるのであれば、小中別々のほうが良い。
- *免許併有が心配だったが、事例を見る限りクリアできそう。
- *真鶴町には、ぜひ義務教育学校建設にチャレンジして欲しい。
- *県西地区初というのは、むしろ魅力的であり移住にもつながる。
- *小中一貫型から段階的に義務教育学校にすれば良いのでは。
- *めざす教育像、教育理念などを具現化してから決めたい。

建設場所も、もう少し時間かけ

一貫教育校の建設場所についても検討しました。候補として現まなづる小、現真鶴中が挙がりました。景観、安全性、利便性、周辺道路、プールの必要性等のほか、学校という概念にまで話が及び、今後も引き続き話し合うことになりました。



施設一体型の校舎で「真鶴らしい」学校づくりを

学校建設準備委員会では、一貫教育校の形態として次のような意見が出され、

校舎を「施設一体型」とすることで決定しました。

- *隣接型、分離型に比べ、様々な面で自由度が高いように感じる。
- *9年間の学びを地域みんなで支えるためには、一体型が相応しい。
- *これから子どもの数が減っていく中で、施設一体型が良いと思う。
- *費用対効果等を考えた場合、施設一体型の可能性が一番高い。
- *一貫教育の良さをより引き出すためには、施設一体型が良い。

アンケートにご協力ください



今月、幼保小中の保護者の皆さんを対象に、一貫教育校についてのアンケートを実施します。親子でご相談いただいても結構です。用紙は園・学校を通じて配付させていただきます。



委員会の議事録・配付資料(抜粋)はコチラ↓



●次回のお知らせ

- 日時 : 12月12日(火) 13:30~
- 会場 : 町民センター2階 第2会議室(予定)
- テーマ: 「一貫教育校の基本理念①」
「一貫教育校の建設場所」
「幼稚園・保育園と一貫教育校」
他にアンケートの報告等

*傍聴もできますので、ぜひお越しください。